

令和4年度 自己評価結果報告書

社会福祉法人ゆうゆう 認定こども園 すみよし愛児園

1. 本園の教育・保育目標

当園では理念として『素朴に丁寧な純真に忍耐強く、子どもを軸として連動する絆を結び、未来社会への人づくり、国づくりの基礎(基盤)力を育む』を掲げています。また、教育保育目標として、目指す乳幼児像は次の3項目になります。

- 1、思いやりのある子ども 2、意欲のある子ども 3、生活の中での決まりの守れる子ども

2. 重点的に取り組んだ目標・評価

一人ひとりの興味関心を大切に、子ども自らの気づきに職員も共に寄り添えるようにした。職員同士の振り返りを十分に行い保育の質を全職員で高めていけるようにした。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
特色を生かした保育を計画し、実践していく。また、評価反省を行う中で、子ども達の情緒が安定し、それぞれの興味関心等がしっかりと保障されていくようにする。	子ども達一人ひとりの想いを十分理解し職員の共通理解のもとで保育を行うようにした。日常の大切さを保護者に伝える中で、保護者と共に環境を整えるようにした。
認定こども園としての専門性を保育者一人ひとりが理解し、教育保育の質の向上を図るため、園内研修や職員での保育観の語り合いを充実させていく。	記録をもとに職員で語り合う機会を定期的に作り、様々な視点で子ども達の育ちを語り合うことを行った。園内研修を通して、より理論的に子ども達の姿が捉え、自らの言葉で伝えられるようにしていった。
日々の健康観察や疾病予防のための取組み、衛生管理等を行い、子ども達が安全で安心な生活が送れるよう努めていく。	看護師による日々の体調管理や、園内の消毒等の徹底を行った。また、職員への周知や研修も行き、職員自身もしっかりとした知識が深められるようにした。保護者への情報提供も随時行った。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

保育や日常を保護者に伝えられるように、保育を見てもらったり掲示を行う等してきた。自分達が何を大切にしているかを保護者等に伝える工夫をさらに行っていく。その為に保育教諭としての視点とさらにしっかりと理論も身に付け、言葉にしていく力が必要である。法人内を含めた園内研修の充実をより一層図り、継続的に学ぶ機会を作っていく中で、振り返りや見直し等を繰り返し行っていくようにする。

5. 今後取り組むべき課題

保育内容・保育環境の充実	今後も園内研修の充実を図り、職員全体で保育の質を高めていけるようにする。また園としての保育の考えを全職員が語れるようにしていく。目の前の子ども達の興味関心、成長発達を常に考え、子ども達にとって必要な環境は整えていく。
危機管理(衛生管理・安全管理)	看護師等の専門知識を職員で共有していく。何かあった際も職員が同じ行動がとれるようにし、園児の安全確保や感染症への対応が行えるようにしていく。
子育て支援への取り組み	保護者との日々のやりとりを大切に、様々な家庭環境の保護者の心にも寄り添っていけるようにする。また、専門機関とも連携し、必要な家庭には情報提供を行っていく。子ども達の発達への不安がある保護者も多いので、保育の中での子ども達の学びや成長を共に感じられるようにしていく。子育て支援センターには保健師さんからの紹介も多い為、連携して支援を行っていく。

6. 学校関係者の評価

子ども達にとってどうかということが一番に考えた保育を行っている。子ども達も周りの友達や職員とこの環境との中で、

日々様々な学びがあると感じている。今しかできない日常をこれからもたいせつに送ってほしい。

職員の研修の場も定期的であり、学ぼうとする意欲が感じられる。

令和4年度 自己評価結果報告書

社会福祉法人ゆうゆう 認定こども園 すみよし愛児園

1. 本園の教育・保育目標

当園では理念として『素朴に丁寧な純真に忍耐強く、子どもを軸として連動する絆を結び、未来社会への人づくり、国づくりの基礎(基盤)力を育む』を掲げています。また、教育保育目標として、目指す乳幼児像は次の3項目になります。

- 1、思いやりのある子ども 2、意欲のある子ども 3、生活の中での決まりの守れる子ども

2. 重点的に取り組んだ目標・評価

一人ひとりの興味関心を大切に、子ども自らの気づきに職員も共に寄り添えるようにした。職員同士の振り返りを十分に行い保育の質を全職員で高めていけるようにした。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
特色を生かした保育を計画し、実践していく。また、評価反省を行う中で、子ども達の情緒が安定し、それぞれの興味関心等がしっかりと保障されていくようにする。	子ども達一人ひとりの想いを十分理解し職員の共通理解のもとで保育を行うようにした。日常の大切さを保護者に伝える中で、保護者と共に環境を整えるようにした。
認定こども園としての専門性を保育者一人ひとりが理解し、教育保育の質の向上を図るため、園内研修や職員での保育観の語り合いを充実させていく。	記録をもとに職員で語り合う機会を定期的に作り、様々な視点で子ども達の育ちを語り合うことを行った。園内研修を通して、より理論的に子ども達の姿が捉え、自らの言葉で伝えられるようにしていった。
日々の健康観察や疾病予防のための取組み、衛生管理等を行い、子ども達が安全で安心な生活が送れるよう努めていく。	看護師による日々の体調管理や、園内の消毒等の徹底を行った。また、職員への周知や研修も行い、職員自身もしっかりとした知識が深められるようにした。保護者への情報提供も随時行った。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

保育や日常を保護者に伝えられるように、保育を見てもらったり掲示を行う等してきた。自分達が何を大切にしているかを保護者等に伝える工夫をさらに行っていく。その為に保育教諭としての視点とさらにしっかりと理論も身に付け、言葉にしていく力が必要である。法人内を含めた園内研修の充実をより一層図り、継続的に学ぶ機会を作っていく中で、振り返りや見直し等を繰り返し行っていくようにする。

5. 今後取り組むべき課題

保育内容・保育環境の充実	今後も園内研修の充実を図り、職員全体で保育の質を高めていけるようにする。また園としての保育の考えを全職員が語れるようにしていく。目の前の子ども達の興味関心、成長発達を常に考え、子ども達にとって必要な環境は整えていく。
危機管理(衛生管理・安全管理)	看護師等の専門知識を職員で共有していく。何かあった際も職員が同じ行動がとれるようにし、園児の安全確保や感染症への対応が行えるようにしていく。
子育て支援への取り組み	保護者との日々のやりとりを大切に、様々な家庭環境の保護者の心にも寄り添っていけるようにする。また、専門機関とも連携し、必要な家庭には情報提供を行っていく。子ども達の発達への不安がある保護者も多いので、保育の中の子ども達の学びや成長を共に感じられるようにしていく。子育て支援センターには保健師さんからの紹介も多い為、連携して支援を行っていく。

6. 学校関係者の評価

記録をもとに職員が振り返ったり、子ども達一人ひとりの姿について語り合う機会が充実している。また、子ども達に姿に対して、疑問を持ち考えようとする姿勢がとても感じられる。子ども達の環境も考え整えているが、子ども達の姿からさらに環境を整備し、一人ひとりにとって居心地のよい空間を作っていってほしい。

令和4年度 自己評価結果報告書

社会福祉法人ゆうゆう 認定こども園 すみよし愛児園

1. 本園の教育・保育目標

当園では理念として『素朴に丁寧な純真に忍耐強く、子どもを軸として連動する絆を結び、未来社会への人づくり、国づくりの基礎(基盤)力を育む』を掲げています。また、教育保育目標として、目指す乳幼児像は次の3項目になります。

- 1、思いやりのある子ども 2、意欲のある子ども 3、生活の中での決まりの守れる子ども

2. 重点的に取り組んだ目標・評価

一人ひとりの興味関心を大切に、子ども自らの気づきに職員も共に寄り添えるようにした。職員同士の振り返りを十分に行い保育の質を全職員で高めていけるようにした。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
特色を生かした保育を計画し、実践していく。また、評価反省を行う中で、子ども達の情緒が安定し、それぞれの興味関心等がしっかりと保障されていくようにする。	子ども達一人ひとりの想いを十分理解し職員の共通理解のもとで保育を行うようにした。日常の大切さを保護者に伝える中で、保護者と共に環境を整えるようにした。
認定こども園としての専門性を保育者一人ひとりが理解し、教育保育の質の向上を図るため、園内研修や職員での保育観の語り合いを充実させていく。	記録をもとに職員で語り合う機会を定期的に作り、様々な視点で子ども達の育ちを語り合うことを行った。園内研修を通して、より理論的に子ども達の姿が捉え、自らの言葉で伝えられるようにしていった。
日々の健康観察や疾病予防のための取組み、衛生管理等を行い、子ども達が安全で安心な生活が送れるよう努めていく。	看護師による日々の体調管理や、園内の消毒等の徹底を行った。また、職員への周知や研修も行い、職員自身もしっかりとした知識が深められるようにした。保護者への情報提供も随時行った。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

保育や日常を保護者に伝えられるように、保育を見てもらったり掲示を行う等してきた。自分達が何を大切にしているかを保護者等に伝える工夫をさらに行っていく。その為に保育教諭としての視点とさらにしっかりと理論も身に付け、言葉にしていく力が必要である。法人内を含めた園内研修の充実をより一層図り、継続的に学ぶ機会を作っていく中で、振り返りや見直し等を繰り返し行っていくようにする。

5. 今後取り組むべき課題

保育内容・保育環境の充実	今後も園内研修の充実を図り、職員全体で保育の質を高めていけるようにする。また園としての保育の考えを全職員が語れるようにしていく。目の前の子ども達の興味関心、成長発達を常に考え、子ども達にとって必要な環境は整えていく。
危機管理(衛生管理・安全管理)	看護師等の専門知識を職員で共有していく。何かあった際も職員が同じ行動がとれるようにし、園児の安全確保や感染症への対応が行えるようにしていく。
子育て支援への取り組み	保護者との日々のやりとりを大切に、様々な家庭環境の保護者の心にも寄り添っていけるようにする。また、専門機関とも連携し、必要な家庭には情報提供を行っていく。子ども達の発達への不安がある保護者も多いので、保育の中での子ども達の学びや成長を共に感じられるようにしていく。子育て支援センターには保健師さんからの紹介も多い為、連携して支援を行っていく。

6. 学校関係者の評価

子ども達一人ひとりに対しての丁寧な関りが感じられ、職員間でも声掛けの仕方が徹底されている。

子ども達が主体的に日々を送っていることが分かる毎日であり、片付けなども自分達で気づき行っており、職員に

指示を待つようなことがない。障害を持って子ども数名いるが、集団の中になじんでおり、無理のない生活が送れている。